2019. 1. 15

ＮＰＯフォーラム・だより №８７

ＮＰＯ法人安房文化遺産フォーラム
代表　愛 沢 伸 雄
〒294-0036　千葉県館山市館山 1016 さらしな館　TEL&FAX：0470-22-8271
Eメール awabunka@awa.or.jp　公式サイト http://bunka-isan.awa.jp

会員・寄付募集中！　⇒　郵便口座　00260-1-97307　名義：NPO法人安房文化遺産フォーラム
年会費＝A会員 2,000 円（総会議決権あり）／ B会員:個人 1,000 円（ニュースのみ送付）・法人 10,000 円

◎ 第 52 回千葉県歴史教育研究集会 ～子どもと地域・社会科を考える～

参加費: 会員以外の市民・学生 1,000 円　教員・会員 2,000 円　　主催：千葉県歴史教育者協議会

１月１９日（土）　　会場：新勝寺信徒会館
13:00～13:50 地域実践報告　「防空法と千葉市空襲」渡辺哲郎（高校教員）
14:00～15:30 記念講演　　「歴史認識と戦争責任」山田朗（明治大学教授）

１月２０日（日）　　会場：成田高校
9:20～12:10・13:40～16:30 分科会（小学校・中学校・日本・世界・地域・平和と民主主義）
【NPO ﾒﾝﾊﾞｰ発表】平和と民主主義　10:20～ 河辺智美「ウガンダ訪問と支援コーヒーキャンペーンの報告」
地域　14:40～ 愛沢伸雄「安房高女にみる地域教育～大正期を中心に」
地域　15:40～ 関和美「旧安房南高校資料にみる学校図書館の歴史と教育」

◎ 安房歴史文化研究会・公開講座

主催：安房歴史文化研究会

１月２６日（土）　14：00～15:30　　会場：館山市コミュニティセンター　資料代 200 円
講師：愛沢伸雄　「安房高等女学校にみる地域教育～大正期を中心に」

県立安房南高校は統廃合となり 10 年余り経過しました。指定文化財である木造校舎の保存と活用を通じてまちづくりを進めようと、「安房高等女学校木造校舎を愛する会」を設立しました。県の委託を受けて見学会を開催し、千人が来場し大きな反響を呼びました。同校にはたくさんの貴重な資料が残されています。安房高等女学校創立から（1907 年）から大正期にかけて、特に注目すべきは、教員養成や自由教育の推進などに取り組んでいることです。女子教育が果たした地域での役割などを紹介します。

◎ 戦跡ガイド学習会　　２月３日（日）

主催：ＮＰＯ法人安房文化遺産フォーラム

9:30～12:00　赤山地下壕ガイドサービス
（個人や小グループを対象に、随時おこなっています。）

13:00～15:30　学習会　会場：豊津ホール学習室　参加費無料
BSテレビ東京『ミステリアスジャパン』　上映鑑賞
「巨大地下要塞と謎の直接軍政 4 日間～千葉県館山市～」.
番組の詳細は、次ページの橋本芳久さん寄稿を参照。
その裏付けとなる資料などを講義で紹介します。

◎ 寺子屋講座～四ツ目垣ワークショップ　　３月７日（木）　9:30～15:30　　※雨天は翌８日（金）に順延

会場：青木繁「海の幸」記念館（小谷家住宅）　主催：青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会
講師：小池英憲氏　（樹木医）　　参加費無料　　持参：軍手・タオル等

記念館の開館に合わせて、四ツ目垣を作ってから3年が経ちました。風雨にさらされ少し傷んできたので、作り方を学びながら、皆さんで庭園整備をしたいと思います。竹材の提供も大歓迎です。

◎ 安房の美術散歩バスツアー（鴨川・白浜・館山）　３月１９日（火）　【要予約】

・定　員：25 名（先着順）　申込：　090-3218-3479（河辺）　※行程は事情により変更の場合もあります。
・参加費：会員 2,000 円・一般 3,000 円（昼食代・入館料等含む）
・行　程：　出発　8:20 布良崎神社　8:25 平砂浦ふれあいショップ　8:40 南総文化ホール
　　解散　15:50　〃　15:45　〃　16:10　〃

① 鴨川市郷土資料館：講義・見学（波の伊八など）

② 江澤館（画家ゆかりの宿）：見学・昼食

1931(昭和6)年、画家の安井曾太郎は太海の江澤館に滞在し、4階の窓から「外房風景」を描きました。鴨川松島と呼ばれる景観は多くの画家に愛され、館内には向井潤吉・鈴木信太郎・野口弥太郎など多くの著名な画家の色紙が展示されています。

安井曾太郎　「外房風景」　大原美術館蔵

③ 下立松原神社（寺崎武男絵画館）：見学

GW には、青木繁記念館と布良崎神社で寺崎武男原画展を特別公開の予定です。

④ 円光寺（青木繁と福田たねが滞在）：見学

布良滞在の翌 1905(明治 38)年、青木繁と懐妊中の福田たねが伊戸に再来訪しました。青木は、焼き釘を使って円光寺の板戸4枚に平砂浦の荒波を描いています。そのイメージソースになったと思われる波の伊八の欄間彫刻「波と龍」を見学します。

波の伊八　『龍と波』　円光寺蔵

青木繁　円光寺板戸『海景』個人蔵

⑤ 道の駅・南房パラダイス（門扉レプリカ「海の幸」）：見学

開園中は気づきにくいのですが、
門扉が閉じられていると
「海の幸」を見ることができます。

【コース MAP】

主催：青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会
　　ＮＰＯ法人安房文化遺産フォーラム

◆ NPOツアーガイド＆講演のスケジュール ◆

＊10 名以上の団体のスタディツアーガイド(有料)を承っています。　…座学・テキスト付=@1,500 円／赤山のみ=@500 円×人数
＊毎月第一日曜の午前は、個人や小グループを対象に、赤山地下壕ガイドサービス(無料)を実施しています。

1月16日(水)13:30～14:30　千葉県観光物産協会教育旅行モニター10 名＝赤山
2月　3日(日)　9:30～12:00　赤山地下壕ガイドサービス
2月　4日(月)13:00～17:00　JR東労組千葉地本 30 名＝座学・大房岬
2月　5日(火)　8:10～11:45　〃　＝かにた・赤山・掩体・上陸
2月 16 日(土)10:00～15:30　パルシステム親子教室 40 名＝赤山・座学・四面石塔
3月　3日(日)　9:30～12:00　赤山地下壕ガイドサービス
3月　6日(水)10:00～14:30　アサココ(ミニコミ誌)20 名＝布良・青木繁
3月23日(土)10:30～15:00　大網白里市生涯学習課 32 名＝座学・赤山
4月　7日(日)　9:30～12:30　赤山地下壕ガイドサービス

御 礼

戦跡ガイドで活躍されてきた**斉藤秀男**さんが、2月末で横浜に転居されることになりました。長い間ありがとうございました。
どうぞお元気で、ますますご活躍下さい。また会える日を楽しみにしています。

寄稿

赤山地下壕の30万人到達とBSの紹介番組を見て感動

NPO法人安房文化遺産フォーラム　橋本 芳久

赤山地下壕はいつ作られたか、ということについて、BSテレビ東京の『ミステリアスジャパン』という番組で、「巨大地下要塞と直接軍政4日間の謎」というテーマの特集が放送されました。

館山市のホームページや解説看板によると、「昭和10年代のはじめに、ひそかに建設がはじまったという証言もあります」とする一方で、「昭和19年より後に建設されたのではないかと考えられています」と記されています。番組は、この矛盾を検証しようという内容でした。

長年にわたり、戦争遺跡の調査研究にあたってきたNPO法人安房文化遺産フォーラム事務局長の池田恵美子さんが出演し、調査報告と見解を紹介していました。

東京湾の入口にあたる館山は、幕末から台場が造られ、明治から昭和にかけて東京湾要塞の拠点でした。関東大震災直後の海を埋め立てて、昭和5年に開かれた館山海軍航空隊は、空母パイロットの養成基地だったといいます。赤山地下壕は、その管制塔を担う軍極秘の地下要塞として、震災後の地質を調査したうえで場所を選定し、専門部隊により建設が始まったとNPOでは考えています。

重要な証言者として、赤山の前で生まれ育った元館山市教育長の高橋博夫先生（昭和2年生まれ）は、日米開戦（真珠湾攻撃）前から掘削が始まっていたと明言しています。

また、NPOは「戦後70年」の節目に、米国テキサス軍事博物館より様々な資料を入手しました。その中に、終戦直後の館山に上陸した米占領軍の兵士の報告書があり、「館山海軍航空基地で、完全な地下海軍航空司令所が発見され、そこには完全な信号や電源、他の様々な装備が含まれていた」と記されているそうです。これは、終戦時には赤山地下壕が完璧な状態で存在していたことを意味します

これらの事柄を総合的に考えると、赤山地下壕は、戦争末期のいわゆる防空壕ではなく、かなり早い段階から秘密裡に建設が始まったという説が正しいのではないかと思われます。こうした証言や資料が明らかになったのであれば、館山市教育委員会では、市指定史跡の解説について再度の調査検討が求められるのではないでしょうか。

番組ではもうひとつの謎として、ミズーリ号降伏文書調印式の翌日、昭和20年9月3日に米占領軍3500名が館山に上陸し、全国唯一4日間だけの直接軍政を館山に敷いたことについても言及しています。

はっきりした理由はわかりませんが、戦後日本をどう扱うかという試金石として、国民性を知るためのモデル占領だったのではないかと仮説が立てられていました。

海に囲まれた半島先端の館山では、古くから海を通じて交流や共生があり、遭難救助が当たり前という助け合いの精神が生きていました。特に、戦時下に米軍機が海に墜落し遺体が漂着した時、館山病院の医師らは検死して埋葬したそうです。

館山病院の川名正義副院長は、市民代表として外務省終戦連絡委員会とともに占領軍との交渉にあたり、この事実を伝えたそうです。これを聞いたGHQは、安心したのではないでしょうか。

もし館山でクーデターや反発が起きていたら、沖縄のように全国が占領統治されていたのかもしれません。平和で紳士的な館山市民の特質を通じて日本の国民性を知り、軍政を4日間で解除した可能性が考えられます。館山市民のもつ「平和の文化」が、平和な戦後日本をもたらしたのではないか、と番組は締めくくられていました。

番組は、知られざる館山の一面について丁寧に掘り下げられ、きちんと整理されてまとめられていて、とても参考になりました。館山市民として誇らしい気持ちにもなりました。全国の多くの人に見てほしい番組であり、ぜひ再放送を望むところです。

占領軍の館山病院視察
（穂坂院長と川名副院長）

なおNPOでは、毎月第一日曜午前に赤山地下壕ガイドサービスを行っています。2月3日（日）には午後1時から豊津ホール学習室で、戦跡ガイド学習会と本番組の上映を企画しているそうです。皆さんも一緒に参加しましょう。

Repport お正月のお守り貝みがき初め大会

元旦から6日まで布良崎神社で、貝を磨いてお守りやアクセサリーを作る体験会を開きました。貝磨きは自分磨き。約 150 名が参加し、充実したお正月を過ごしました。講師の福田康孝さんは 20 年にわたり貝磨きの技術を研鑽し、2006 年にはフロリダで開かれた貝芸術祭で日本人初のホビージュエリー部門1位を受賞。館山市(平砂浦)在住。

Repport 年金者組合安房支部文集『なの花』第 44 号(2019 年 1 月発行)

日頃よりNPOと連携を図っている全日本年金者組合安房支部は、強い絆で活動を進めています。毎年お正月に発行する文集は、NPOが編集のお手伝いをしています。新屋敷孝さん・重子さん、愛沢伸雄さん、小沢義宣さん、橋本芳久さん、米津早雄さん、田中一男さん、斎藤陽子さん、田中房江さん、初山京子さんら共通するNPOメンバーの心温まる原稿を楽しめます。(希望者は事務局まで)

私たちの大切な仲間・小沢道子さんが脳梗塞で倒れ、介護を余儀なくされています。皆さんもご心配のことと思います。小沢義宣さんが文集『なの花』で近況を報告していますので、その一部を紹介させていただきます。義宣さんの健康と道子さんの快復を心よりお祈り申し上げます。

パズル　小沢　義宣

私の妻、道子が昨年6月17日(日)に、かなり重度の脳梗塞を発症して、救急車で亀田総合病院に搬送されました。なんとか一命はとりとめたものの、右半身の麻痺と言語障害が残り、市から要介護5と認定されました。嚥下障害があるので「胃ろう(胃に穴を開けること)」を選択し、徐々に口から食べる量を増やしていくという方法でした。

皆さんがとても心配して、いろいろな方がお見舞いに来てくれました。懐かしい知り合いに会うと、妻はとても喜んで笑顔になります。今は、「夢くらぶ」という施設でお世話になっています。リハビリ担当(理学療法士)の大川伸子さんは、妻が仲良くしていた荒井恵美子さんの娘さんで、とても良くしてもらっています。

リハビリの成果がめざましく、殆ど補助しなくても、左手左足だけで車椅子からベッドに移動できるようになりました。ゴチャゴチャに混ぜた52枚のトランプを印ごとにエースからキングまでを順番に並べることもできます。

食事は、昼食だけは「胃ろう」を使わず、おかゆと、とろみのついたおかず3品です。施設では、なるべく「胃ろう」を減らしていくという方針です。

妻のことばかり書いてきましたが、「野草の天ぷらパーティー」「流しそうめん」「バーベキュー」など、野外で行うパーティー形式の行事が年に何回かあります。

使用する道具のうちかなりの物を、私と妻の両方の車に助手席にまで、荷物を一杯に乗せて行きます。妻の車は台所用品が多く、鍋、ざる、ボウル、バット(羊羹ながし)、お盆、包丁、まな板など、いろいろ積まれています。

行事が終わり、彼女はそれらを洗ったあと、丁寧にビニールにくるんで、ストッカーにしまっていたらしいのです。

「らしい」というのは、7月25日の「村上さんちで〝流しそうめん〟」の時は、彼女の発症後だったので、飯島ヒロ子さんの助けを借りて私が準備しましたが、その時、初めてそのことを知りました。前日の準備では、ストッカーの中から、必要と思われる物を、後先考えずに、かたっぱしから車に積み込み、会場に運びました。

会が終わって、しまう段階になって、さあ大変、ストッカーに収まらないのです。ジグソーパズルというのがありますが、それを立体的にしたようなものです。入れたり出したりを何度も繰り返しますが、うまくフタが閉まりません。パズルがうまく解けない感じです。改めて、妻に脱帽です。

入り切らない鍋やボウルなどは、邪魔くさいと思いながら、私が普段使っている食器棚の下の方に積み重なって、次の出番を待っています。